

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292600143		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム八千代高津		
所在地	千葉県八千代市高津850-16		
自己評価作成日	令和元年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ie.com/ins147.html?_ga=2.119324992.894514521.1572758711-15981

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和1年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常にとにかく楽しく、安全にそして笑顔でという八千代高津の理念のもと職員だけではなく入居者様も楽しく暮らせるよう行っています。また入居者様一人ひとりに合った支援を常に話し合うことを目標に入居者様のできる能力を活かした役割を持って頂けるよう支援しています。また、スタッフも介護の知識を高めれるよう、研修や話し合いをし会議では必ず意見を言うことを実践しています。また、ユニット関係なく入居者様の交流、スタッフ間でも自ユニットだけではなく情報を共有し対応できるように努めています。笑いあったり、うれし泣きなど第2第3の家族になれる様に入居者様と関係性を作っています。外部からのボランティア様や、退居された入居者様のご家族様もよく来ていただきご指示やお話も聞いて下さることが多くある為、今後も継続して雰囲気よく楽しいホームを引き続き目指していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○事業所と地域とのつきあい
 入居者は5街区の祭りに行く、事業所の駐車場で催すバーベキューには、近隣の子供達がやってくる。西高津小学校の生徒が登・下校時に笑顔で挨拶する。日々の散歩で顔馴染みの住民から直接入居の相談がある等、地域との付き合いは広がっている。
 ○馴染みの人や場との関係継続の支援
 子・孫・ひ孫等肉親の面会に加え、退居された人の関係者や踊りを披露してくれるボランティアの人たち、習字の先生などの来訪は楽しい。また、日々の散歩で馴染みの人に出会うのも楽しい。事業所は幅広く馴染みの人と触れ合える支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をタ礼の際に復唱し、スタッフ全員が理念を共有し、理解できるよう実践をしている。また、独自の理念も共有している。	全社共通の理念が謳われたクレドカードは職員全員が所持している。また、事業所独自の理念「楽しく、安心、安全」を玄関に掲げ、申し送り時の唱和や会議の場等で共有を図り、日々実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方が交流をする機会が増えてきている。ホーム側からではなく、ボランティア様から連絡が来て遊びに来て下さることもある。	5街区の祭りに行く、事業所で催すバーベキューに、近隣の子供がやってくる。西高津小学校の生徒が登・下校時に笑顔で挨拶する。散歩で馴染みの住民から入居の相談がある等、地域との付き合いは広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症とは何かをスタッフ一同で学び、地域の人たちに少しでも認知症の理解を深められるよう行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況説明及び、活動報告やスタッフ、入居者様の悩みも運営推進会議を通して、ご意見をお聞きする機会を持つようになっている。	2ヶ月ごとの会議では、職員の入・退職、入居者の事故や行事予定等が報告され、これらに対する意見や要望が記録されている。包括支援センター等に加え八千代市の他ホームが出席し、家族には後日報告されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携を取る様に心掛けています。今後も協力して関係性を強められるよう行っていきます。	独自では判断が出来ない場合、義務づけられた報告書の提出等で行政の窓口に出向く機会も多く、入・退居の相談で包括支援センターとの接触も多い。また、市の支援を得て部会で市民への啓発活動を検討中である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	メディカル・ケア・サービス株式会社の取り組みとして、不適切なケアチェックを2か月に1度各スタッフに実施しその後の対応など全員で周知するようにしている。	身体拘束禁止の教育・実践のシステムは整っているが、入居者の小さな失敗を「注意」する、職員が考えるルールに反したときに「制止」する等、言葉による拘束が時々見られる。事業所はこれらの皆無にも努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、身体拘束の委員会を作り、話し合ったことをユニット会議または、ホーム会議にて周知できるようにしている。また研修を行う機会があり、テスト形式にし理解できるように行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して理解できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム管理者がご入居契約等を行っており、その際に不安や疑問点を聞き納得して頂けるよう心がけています。また、その都度でもご家族様にもご理解頂ける様に心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	メディカル・ケア・サービス株式会社の取り組みとして、年に1度ご家族様アンケートを実施しその後結果をもとに改善できるよう計画している。	家族等は個別面談ではハッキリと言わないが、会社の行うアンケートや外部評価時に行うアンケートでは意見や要望が述べている。事業所は、これらを詳細に検討し、計画に沿って運営の改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	メディカル・ケア・サービス株式会社の取り組みとして、年に1度スタッフアンケートを実施している。また、アンケートだけではなく、その都度話を聞けるようにしている。また、スタッフでの目標、ご家族様への目標を設定している。	職員に対する年1回のアンケート結果から、会議・申し送り時・職務遂行時に、また、個人面談や日常の会話等から、個々の意見や提案を聞き運営に反映すると共に、悩みも聞き健全に職務が遂行できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上記同様にスタッフアンケートを実施しています。アンケートもとにメディカル・ケア・サービス株式会社側は各従業員が向上心を持って働ける様取り組みを行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各役職に合わせ社内研修を行っております。また、資格取得制度等もあり働きながら資格を取得する事もできるよう社外研修の参加も促し参加できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八千代市グループホーム部会に参加し、市内のグループホームとの交流を行っている。また、事例検討会等も行い、困難事例やホーム側の悩みも聞き八千代市全体として動けるよう関係を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に理解できるよう全員で協力を心掛けています。困っている事等、見抜けるように関係性を作ることを重要視している。常に共有することを第一にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が安心してサービスを利用できる様にご要望等あれば、お話しし関係性も強められるように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にケアマネージャーと共にご本人または、ご家族の所へ訪問し思いを伺い、その人に合ったサービスを提供できるように努めています。また、理解もしていただくためにしっかりと相談をし関係性を作っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様に合った介護を常に探し、スタッフも年齢関係なく協力し合い関係性が作っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月にお便り(近状報告)をご郵送したり、電話や面会時にもスタッフ全員で、ご報告等できるように心がけています。スタッフ全員がご家族様と話せるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人やご家族様など途切れない様にご連絡や面会をしていただけるよう努めています。また、ご入居者様のキーパーソンだけではなく(お子様・お孫様)の面会も多くなってきたように感じます。	肉親の面会に加え、退居された人の関係者や踊りを披露してくれるボランティアの人たち、習字の先生などの来訪がある。また、日々の散歩で出会う人等、幅広く馴染みの人と触れ合える支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが常に支えあえる関係性を作れるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に関して、積極的にご連絡する事はあまりありませんが、その後の様子など連絡や、他施設など訪問もし関係を途切れなないようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や本人の行動をみて、一人ひとり何を求めているか理解できるように心がけています。	ちょっとした言動に「あれっ、この人はどうなのかな？」ということから注意を払うことにしている。例えば、気難しい人で外食はしたいののだが、皆と行動をしたがらない時は、その人の意向を汲み取って、個別に外食に連れて行くこともある。また、体調管理に気を配っており、あまり失禁をしない人が失禁をした場合、何か悩み事があるのではないかと職員間で分析をし理解しようとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様・ご家族様との会話や生活歴を調べその人に合ったサービスを常に探し反映できるように心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、入居者様の状態を確認し状況把握に努めております。また、変化があればすぐに報告するようにし全員で動けるように心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議等で入居者様の現状の問題等を話し合いをしたり、それをホーム全員で統一できるようにユニット関係なく行っている。	チームケアに徹する行動が事業所内で動き始めている。以前は、ホーム長、ケアマネージャーが決めていたことを最近では介護職員から「こんなことをしたら良い方向に向かった」という意見が出れば、全職員で共有化を図っている。生活リハビリの中で、股の間にボールを入れて筋肉の強化をしたらトイレで一人で立てたという例もあった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子を記録し、職員間で情報共有し、必要に応じ、ケアの見直しを行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット関係なく連携を行いながら可能な限り柔軟な対応をできるように話し合っています。また部会などを通してどんなサービスがあるかなど話し合う機会も多くなってきています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や近隣のごみ拾いなどを通して交流できるように心がけています。また、近くの幼稚園や小学校も近くにある為下校帰りなどたまに寄っていただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診時以外でも急変時等相談事があると24時間往診医との連絡が出来る様になっております。また、SNSを利用し情報共有を行っており、常に関係性を築けるよう努めています。	入居前からのかかりつけ医に通っている利用者は現在、2名いる。基本的には、家族が予約して病院に連れて行ってもらっている。それ以外は、提携医が往診に来て各人の健康管理がなされている。通常、「緊急時の対応」というマニュアルに沿って対処できる仕組みとなっており、マニュアルでどうしても対応できない時は、SNSを利用したメディカルケアネットにて提携医と連絡が取れるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護日以外でも24時間直通電話を使用し訪問看護師と相談を行い、個々にあった対応をできる様に努めております。また、訪問看護師も往診医と連絡を取れるよう連携を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者と話し合い状態の報告や確認し早期対応また、早期退院を出来る様に努めております。また、カンファレンスも行っている。また、カンファレンスも行っている。また、カンファレンスも行っている。また、カンファレンスも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、医療、ご家族と話し合い、本人様の様子、気持ちなど統一して行えるようホーム側から動くようにしています。常に話し合い、連携を図り、どんなことも対応できるように協力しています。また、研修等も行い、医療側からの研修も参加しています。	入居時に「看取りの同意書」という書類を提示し、説明の上同意を得ている。通常、週1回の訪問看護及び2週間に1回の提携医の往診で状況確認がされている。ホーム内では看取り研修の実施もされており、重度化が進んだ場合は医師の指示を仰ぎながら家族と連絡を取り合い対応するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの設置を行い対応に備えている。また、今後救急救命講習等開催し実践力を身に付けて頂く様に考えております。またその場面になった時に落ち着いて行動できるよう考えながら行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回日中・夜間想定で、実施しております。またその場面になった時に落ち着いて行動できるように考えながら行うようにしている。	今年度は5月と8月に消防訓練を実施した。台風15号では、今まで経験をしたことのない状況であった。会議で今回のような台風が発生した場合は、家族の支援が不可欠であるという意見が出て、月1回の家族への「お便り」の中でも協力の依頼記事を掲載した。緊急時には近くの習志野駐屯地の協力支援もお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自立されている方も多い事から個人の時間を大切に考えておりますが、たまに職員優先な対応があります。また、声掛けに関しては、入居者様に合わせ対応しておりますが、スタッフ目線で見てしまうことも見られています。	声掛け一つでも注意を払うようにしている。時にはスタッフの目線で、食事時に立ちあがった利用者へ「どこに行くの？」と事務的な声掛けをしてしまうことがある。棘のない、優しい声掛けに注意するよう職員には日頃伝えている。また、個人の尊厳を大切にすることで、会社のマニュアルを使って年2回、プライバシー保護の研修を行い周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、希望や自己決定ができる環境になっていない時があります。言いやすい雰囲気を作ることができるようにしていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ優先せず、都度入居者様のペースで過ごせるよう一人ひとりの理解をできるようにしていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用したり、近隣の床屋に行かれたりする方もいらっしゃいます。女性入居者様が多い事もあり、外出する際は女性職員が化粧を手伝ったり男性職員は男性の入居者様にひげや髪を整えるなど行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳などを入居者様と共に行っております。また、食事レクなども定期的に行うようにしています。	食事は内部で作っているため、身近なものとして、調理中の匂いに親しみを感じるようである。味付けや配膳に参加したり利用者同士ワイワイガヤガヤと食事の準備・後片付けを通してコミュニケーションも深まり、職員との間でも会話が弾んでいる。食事レクもその都度行われており、何が食べたいという要望も多く出ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理指示書をもとにバランスの摂れた食事を提供しております。また、各入居者様に健康管理記表を付け、水分量・食事量等の把握を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア実施と週一回訪問歯科があり、先生が来て下さる為、口腔内の様子や入居者様の訴えに応じ、訪問歯科コーディネーターと相談し対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握を健康管理表を使用し行っており、本人様ができるだけトイレで行えるように職員二人で介助をしております。	失禁、失敗等により利用者の萎縮にも繋がりがねないし、お尻のかぶれから不衛生ともなる。排泄パターンを見直し、場合によっては二人介護をすることで、トイレで一人で立とうという気持ちにもなり、生活リハビリに繋がっていくこともある。また、トイレで用を足すという訓練で、自らトイレの訴えをするようになってきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・食事量・活動量を全員で把握するように心がけ支援しています。それでも難しい場合は、往診医、訪問看護とも相談し連携を図っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりに聞き、タイミングを見て合わせて対応している。時間や洗体のやり方など合わせて支援しています。	入浴スケジュールを組んできちんと実行するというよりも、順番にお風呂に入ってもらい、最低週2回の入浴をしてもらっている。歌の好きな方には、入浴中、浴室に演歌が流れるようにして、ゆったりと湯船に浸かってもらっている。入浴剤を使って気分転換をすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や、本人様の状態をみて、声掛けや居室内の環境整備に取り組んでいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・訪問看護師・薬剤師など相談、連携しスタッフが薬について理解できるようにしている。まだ理解できていないスタッフもいるが、薬の重要性と副作用など理解できるように声を掛けていきます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあった役割を持って頂くようスタッフ全員で動いています。また、意欲が出るように声掛けや、レクリエーションして楽しく生活できるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様や、ボランティア様にも協力して頂き、一人ひとりに行きたい場所、食べたいものなど思いを叶えられるように現在行っています。	昼食後、ほぼ全員の方が散歩に参加されている。散歩に行きたくない人には、少しでも外気に触れてもらおうと外に出て日光浴をもらうよう心掛けている。家族からの要望があれば、家族と一緒に家に戻ることもある。また、グループ内の6ホームでの合同音楽コンクールが4月に八千代市民会館で開かれた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルを考慮し、ご家族に説明し、ご本人・ご家族の承諾の上で、金銭を持たれている方もいらっしゃいます。また、必要に応じて本人様の必要なものや食事、飲み物を購入されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際に本人自ら電話できる環境です。ご家族様にも伝え、ご家族様からも電話しやすい環境を作っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が安心、安全に暮らしていけるよう配慮を心がけております。	共有空間ではゆったりと落ち着いた気分で過ごしてもらうため、音・光・温度には注意を払っている。うるさい音、大きい音を極力抑え、声掛けの音量にも気を遣っている。照明もLEDランプを使い、空調機器で温度コントロールをしている。ベランダや庭には花壇を置いて情緒安定にも繋がるよう心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様に合わせた座席配置をしております。気の合った入居者様同士や、新規入居者様でもすぐになじめるようにその都度環境整備を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面等を考慮しつつ、自宅で使用していたご本人の馴染みのある家具等を入居時に置いて頂く様にご家族様に説明し、設置して頂いております。	居室内で利用者が動く上での導線に注意し、転倒防止からもすぐに捕まえることができるようにタンス等の配置に注意している。以前からの環境を変えないように馴染みの物の持ち込みも受け入れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチンやフロア内は、基本目田に行き来ができ、刃物などは、スタッフが管理し安全性を高めています。各居室には入居者様の写真を貼ったり、本人様が過ごしやすくわかりやすいようにラベルなど貼り支援しています。		